

1. パリ市からエスモード 170 周年式典に招待されて

「フランスを変えた男、仁野覚氏の快挙」

世界 14 ヶ国 21 校で確かな技術とクリエイションでモード界をリードする教育機関エスモード学院。同校はナポレオン 3 世の時代に宮廷服飾士のアレクシス ラヴィーニュによって創設されました。立体裁断に使うマヌカン（人体）や巻尺はエスモードによって作られ、フランスはじめ世界の服飾文化発展の基礎がここで作られたのはパリでは有名な話です。その様な伝統校の CEO に 2000 年「仁野覚」が就任しました。1984 年、同氏は日本校を設立し日本のファッション業界に衝撃を与えました。仁野氏の目指す方針はこうです。「プロフェッショナルを作る」そのために大事な事は①国際性 ②確かな技術 ③個性と創造性の 3 点でした。その業績と世界へ対する先見性が認められ、パリエスモード本校と世界 14 ヶ国を束ねる CEO に就任しました。ファッションの本場の TOP に日本人がと大変な騒ぎになりましたが、日本校で培った改革精神を元に改革を行い、パリ発世界への流れが加速しました。パリ市は文化、芸術、デザイン、ファッション等に理解があり、産学協同やクリエイションを支援する活動を日本では考えられない範囲で行っています。何しろ市にファッションディビジョンがあるほどです。今回はそのパリ市が主催して、エスモード 170 周年の表彰記念式典を市庁舎で行う決定をしました。そこで仁野氏と縁が深いルミネ花崎会長他スタッフ、アイベックスの永森氏、シトウレイ女史と私にパリ市から招待状が来た次第です。6 月 30 日にル・トリアノンで世界各国の学生によるファッションショーがあり、翌日 7 月 1 日に市庁舎で式典がありました。正に中世の宮殿のような市庁舎貴賓室で、副市長からファッションの教育を通して世界へ向けてパリ市そしてフランスに貢献したと、仁野覚 CEO が表彰されました。私は仁野氏の日本校設立時からの友人として心底から嬉しい瞬間でした。日本のファッション界もアジアだけでなく欧米で勝負する個人や企業が出てもらいたいものだとつくづく思ったパリ式典でした。

2. レベルが上がった第 3 回中日本エクシス接客コンテスト

中日本エクシスでは SA（サービスエリア）PA（パーキングエリア）の CS 向上に向けた取り組みとして、「お招き」と「おもてなし」の心を持った接客スキルの向上を目指し、第 3 回 SA、PA 接客コンテストが 7 月 21 日、名古屋のしらかわホールで行われました。私は審査委員として初回からお手伝いさせていただいております。僅か 3 年の短期間でのレベル UP には目を見張るものがありました。中日本エクシスは東名、中央道、東海北陸、名神、東名阪等、日本の主要な高速の SA、PA を有し、各地での販売従業員総数は 8,000 人を超える巨大な商業施設です。「わざわざ来て頂ける」、「もう一度来たくなる」SA、PA への強い会社方針の下、激しい予選会を勝ち抜いた精鋭 28 名が本選に出場しました。飲食、物販、専門店の 3 部門からそれぞれ部門優勝が選出され、最終選考で 8,000 人の頂点に立つグランプリ受賞は東 瑞恵さん（大山田 PA 下り）三重ハイウェイサービス(株)に満場一致で決まりました。控えめな接客ですがお客様を思いやる気持ちと優しさで感謝

の気持ちがあり、初めから終わりまで一貫して安心感あふれる素晴らしい接客でした。「今日は暑いですね、お疲れでないですか」で始まった会話には6回以上もお客様への問いかけがあり、その答えは丁寧に優しく分かりやすくされていたのが大変、印象的でした。「もう一度来たくなるかどうか」は最終的には好感度に集約されものと思われます。東さんから好感度の基本を改めて認識させられた思いがしました。中日本エクシス勝美社長が提唱している「お招き」と「おもてなし」を日々、鍛錬していけば素晴らしい商業施設に成長していくこと間違いありません。

企業のCSはまずTOPの明確な方針があり、それに基づき担当部門の現場を巻き込んだ徹底した行動が全てを決定します。

これからの中日本エクシスのSA、PAに注目です。

3. 事業継続に奮闘する原発事故被災地区の縫製工場

東京電力福島第一原発事故による被災者の苦悩が続く中で、福島県相双地区（相馬・双葉地区）の縫製業者は厳しい事態に直面しながらも事業継続に必死の努力を重ねています。同地区を6月下旬に訪れた専門家によりますと、同地区には約30社の縫製工場がありますが、避難地区に立地する工場は操業停止、20km圏外の工場も多くの従業員が避難し、放射能汚染を恐れて地元に戻ってこないため、操業を再開したものの生産力が大幅にダウンした工場が目立つそうです。それでも、事業継続に奮闘しています。

ある工場では、ようやく高い技能を体得した、工場の主力戦力である30歳代の女性従業員が、子供の健康を心配して東京や他県など各地に避難してしまったため、生産性が大きく落ち込んでいます。また、中国人研修生に労働力を依存していた工場では、研修生が帰国したまま日本に戻らないため操業が再開できなかつたり、低稼働率にあえいでいる状況にあるとのことでした。

ほとんどの工場が何らかの被害を被っている中で、注目すべき点は国内生産への回帰の動きと、中国人研修生依存でなく日本人従業員による操業を志向する経営者が少なくないことの2点です。前者は、中国生産のコストアップから国内生産に回帰する動きですが、同地区への国内アパレル企業からの発注は、原発事故以降も減っていないようです。ある縫製業者は「仕事はあるのだから、従業員さえ集まれば確実に事業が継続できる」と断言していました。

もう1点の脱・中国人研修生ですが、日本人従業員がどれだけ集まるか、不安を拭い去る決め手は見つかっていないようです。しかし、生まれ育った地域で仕事ができるのであれば、それにこしたことはありません。原発事故が収束し、安心して地元で仕事ができるようになれば、従業員確保も可能になるでしょう。放射能の心配が収束に向かうことが前提ですが、その上でアパレル企業やSPA企業には、是非とも福島県など大震災の被災地域への発注を増やしてもらいたいものです。被災地への支援に加えて、ことは被災地への支援と「メード・イン・ジャパン」ファッションの明日に関わることなのであります。

4. 名門レナウンの好評判と今後

日本のアパレル産業をリードした名門、レナウン。一時は経営不振で将来を危ぶむ陰口も聞かれましたが、最近は、着実に経営再建が進展していることを指摘する声が多く聞かれます。レナウンのブランドを生産している、国内の縫製業者やニッターの中には、福島第一原発事故で操業停止や従業員の避難による人手不足で生産に多大の支障を被っている企業が少なくありませんが、そうした企業を含めて多くの生産者は、異口同音に「レナウンの生産発注は、数量などが明確でしっかりしている」と言います。

レナウンは、まさしく日本のファッション産業を牽引してきた名門企業です。一時、いわゆる財テクに安住したのでしょうか、経営不振が表面化し銀行主導、ファンド主導で経営再建に努めてきました。昨年7月には、中国の繊維企業大手の山東如意科技集団有限公司（ルーイ）の傘下に入り、名門復活を目指すことになりました。

そうした中でのレナウンの最近の好評判です。外注企業への確かな発注は、自社（ブランド）の生産、販売計画の精度向上を証明するものでしょう。加えて、誰が見ても高成長が予測できる一大市場である中国での事業拡大でも、多くの日本アパレル企業が授業料を払うばかりで、成功には程遠い状況にあるのに比べて、中国市場を知悉しているルーイの知見とレナウンのブランド管理・運営力、生産管理能力などを生かせば事業拡大が大いに期待できる、との見方が支配的になっています。

名門、レナウンが復活する日。それは、国内の生産者に信頼され、かつグローバル時代にふさわしい、あの中国という大地での成長を通じてのことなのではないでしょうか。今後が大いに注目されます。

5. ジャッジー口銀座

イタリアのフィレンツェにある世界最古の薬局「サンタマリア・ノヴェッラ」の自然治癒や予防医学という思想を取り入れたレストラン。トスカーナ料理をベースに自然治癒力を高めるハーブなどを使った料理が揃っています。メニューに効用がわかりやすく書いてあったり、かなり専門的にもかかわらず店内は落ち着いていてシックでおしゃれで女性に大人気のレストランです。料理の盛りつけ方の綺麗さや味についても申し分ありません。中でもこちらの看板メニューは「15種類のハーブサラダ」。自然治癒力とデトックス効果が期待できる1品です。ランチメニューにある「15種類のハーブサラダ」と「パスタかニョッキ」のセットがおすすめです。最後にいただくハーブティーもとても美味しく、落ち着いた雰囲気の中で心も身体もリラックス&デトックスできるお勧めのランチスポットです。女性の内から綺麗になりたい、でも美味しくなくては満足できない、そんな飽くなき欲求を満足させてくれる貴重なランチスポットです。お値段はランチで¥2000～。ランチでも要予約です。

中央区銀座 7-10-5 デュープレックス銀座タワー7/10 B1F

TEL：03-5537-2233

営業時間：ランチ 12：00～13：30（L/O）

ディナー 18：00～21：00（L/O）

日曜日 12：00～15：00

不定休